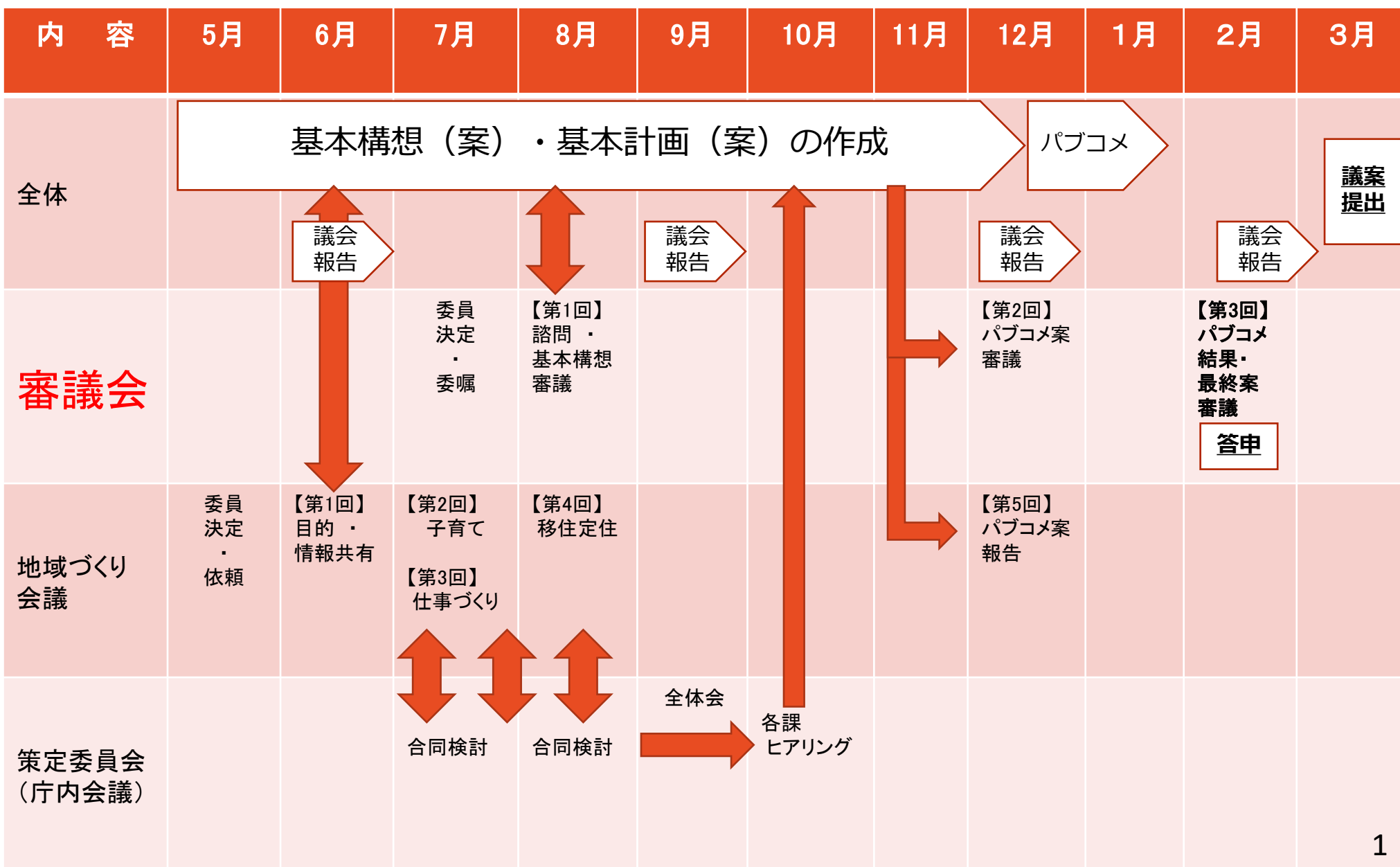


第6次松川町総合計画(案)について

まちづくり政策課 企画調整係

ここまでの経過（全体）と今後の動きについて



前回(12/17)の審議会で出された意見の反映状況

項目	委員の皆様から頂いた意見・提案	計画案の反映状況
総括的事項	施策の総括について、目標値が5年後と長く、施策を効果的に進めるには毎年の総括が必要ではないか。 毎年の課題は何なのか(財源、マンパワー、怠慢)検証していかないと目標には結びつかない。また、指標が分かりづらいので数値化できるものは出来るだけして進捗率を確認する必要がある。また、議会で総括を公表していくことが望ましい。	進捗管理として、アウトカム指標を使う。毎年度ウェルビーイング(地域幸福度)指標のアンケートをとり、行った取組が住民の実感につながっているかを測る。アンケートで出てきた数値を踏まえつつ、目標値の数字に対しての進捗を毎年度行政評価などで追っていく、課題感やご意見をしっかり各課とすり合わせながら、改善策を検討していく。行政評価はこれまでも議会に報告しており、変わらず適切なタイミングで報告していく。
	「検討する」の使い方について、事業を前提とする検討なら良いが、するかどうか分からないものを施策として掲げるのはいかがなものでしょうか？総括の取り扱いも難しくなります。	住民の幸せ実感(ウェルビーイング)の向上というアプローチでまちづくり将来像を達成するため、基本計画では24因子ごとに町の基本方針を記載している。これらの実現に向けて、各課と擦り合わせたうえで、「検討」も含めて現時点で想定できる取組を実施していく。しっかり「検討」したかどうか、「検討」の結果がどうだったかは、毎年度行政評価等で検証していく。

前回(12/17)の審議会で出された意見の反映状況

項目	委員の皆様から頂いた意見・提案	計画案の反映状況
基本計画	有害鳥獣について、時期によっては通学路などに出たり、大変な被害が出ているところがある。もっと地域と一緒に対策する必要があると考えるため、是非項目として入れてもらいたい。	P41「自然の恵み」因子の中に、「地域との連携による有害鳥獣対策の推進」を明記。
	町の特産に農業を上げる一方では施策が農業研修制度である。南信一の農家数を誇る農業振興に触れていないのはいかがなものか。	ウェルビーイング(地域幸福度)指標において設定されている24因子を基本計画の施策領域と置いたため、24の因子の中には農業という直接の因子はない。 本計画の重点分野である「シゴトづくり」に関わる「雇用・所得」や「事業創造」等の因子の中に、農業関係施策の取組を明記。 また、関連する個別計画において、今後策定予定の「農業基本計画」を明記し、これに基づき農業振興に関わる取組を展開する。
	「自治体や企業等向けの健康学習・・・」とありますが、施策の主体は町なのでこの言い回しはいかがでしょう？むしろ検診率の向上を上げた方が良くないでしょうか。	「健康状態」のページにおいてご指摘の取組の記載があるが、住民の実感として成果指標の「私は身体的・精神的に健康である」という指標が上昇し、町の基本方針の達成を目指すための取組という意味合いで、このような記載ぶりとしている。 住民のウェルビーイングを上げていく過程で受診率の向上はもちろん必要と考えており、担当課で策定する「健康まっかわ21」等の各個別計画による取組も実施していく。

前回(12/17)の審議会で出された意見の反映状況

項目	委員の皆様から頂いた意見・提案	計画案の反映状況
成果指標	成果指標の設定方法について、現場の実感や課題感をとらえたものとしてもらいたい。「維持」だと「現状でよい」という誤解のあるメッセージになりかねないのでは。	現状水準が高くでている因子などは、飛躍しすぎた目標ではなく、水準を死守していきたいという意味で、「維持」としている。 表現だけ見れば「維持」だが、今後、人口減少による担い手不足など、厳しい状況になっていくことを考えれば、今まで以上に手厚く取り組む必要があると考えており、計画にもそのように盛り込んでいる。
	成果指標について、目標として高いところを目指したいが、ここから4年先を見た時の実情としてはこうではないかという考え方が読み取れない。本当にこの目標値でいいのかがよくわからない。	目標値として設定したウェルビーイング指標は、今回初めて測ったため、私たちもわからないところもある。しかしウェルビーイングのアンケートを毎年度取ること、目標に対して住民の方の実感がどうかということをしっかり分析し、取組を実行していく。

前回(12/17)の審議会が出された意見の反映状況

項目	委員の皆様から頂いた意見・提案	計画案の反映状況
計画の実効性・内容	置物ではなく、いかに実効性を担保するかが重要。「想定する取組」が各課や係から出てきているということかと思うが、現場の声や実施者の声をどのように反映し、取組んでいくのかをしっかりと深めてもらいたい。	色々な場面で具体的な課題があることは、これまで審議会や地域づくり会議でもいただいている。目標値の数字に対しての進捗を毎年度行政評価などで追っていき、課題感やご意見をしっかりと各課とすり合わせながら、改善策を検討していく。
	基本計画における「想定する取組」に書いていない事項は取組としては薄い、またはやらないということなのか。	記載のない項目はやらないということではなく、役場としてやらなければならないことは計画に書いていなくても実施していく。今回の総合計画は、今後4年間で取り組むことについて、重点分野をはっきりさせながら盛り込んでいる。
	計画に記載のある取組で縛られてしまい、他にやりたいことの提案があっても総合計画に取り込めていないからやりにくいなど、柔軟性がない計画になっていないか。	現状で想定できる取組を盛り込んでいるが、時勢や状況に応じて変えていきながら別の取組も実施していく。ここに載っていないからやらないということはない。
町民等の意見の反映	町民アンケートの回答は約1,000人で、あくまでも全町民約12,000人の1割なので、万能ではないことに留意すべき。	確かにアンケートは万能ではない。工夫をすることで多くの意見を聞ける手法のひとつではあると思っている。地域幸福度指標を軸に置き、アンケート結果もしっかり反映し、計画を少しでも実効性のあるものに行っている。

第6次松川町総合計画の全体像(ビジュアル図)



パブリックコメントの結果と町の考え方・見解

○ 実施期間

令和6年12月26日～令和7年1月24日(30日間)

○ 意見提出件数は1件

(参考)同時にパブリックコメントを行った関連個別計画は意見なし(0件)

○ 提出のあった意見の概要と町の基本的な考え方・見解

今回の審議会後、町ホームページに公開予定

カテゴリー	関連する24因子	寄せられた意見	町の基本的な考え方・見解
全体的意見	2.買物・飲食 5.遊び・娯楽	県道59号松川インター大鹿線の松川インターから東浦交差点近辺は、県外から果物を買いに来訪する人たちで賑わっているが、この道沿いには食事をする場所が無いと何とかなしてもらいたいとの声をよく耳にする。今回の総合計画において、この声に対応する項目が無い点が残念である。	具体的な飲食施設の営業活動は、主に民間事業者の主体的な動きによるものと考えています。その一方で、行政側は地域資源の活用やブランドイメージの向上に取り組み、民間事業者等が飲食施設を出店しやすい・営業しやすい環境を整えていく必要があると認識しています。それらについては、第3部：基本計画の施策領域「2.買物・飲食」や「5.遊び・娯楽」における「町の基本方針」や「想定する取組」を実施していく過程で推進して参ります。